学術集会
ご報告

第18回
日本生殖内分泌学会学術集会を終えて

会長
緒方　勤
（浜松医科大学
小児科
教授）

第18回日本生殖内分泌学会学術集会を平成25年12月７日（土）に東京砂防会館（シェーンバッハ・サボー）（東京都千代田区平河町２−７−５）で開催いたしました．

今回の学術集会の最大の特徴として，一般演題が過去最高の59題に達し，基礎分野からの発表が非常に多くなったことが挙げられます．これは，「生殖内分泌にかかわる臨床医学（産婦人科，泌尿器科，内科，小児科）と基礎医学の研究者が一堂に会し，情報交換する学際的な場を提供する」という本学術集会の目的にまさに合致するものであり，皆さまに厚くお礼申し上げる次第です．これに伴い，うれしい悲鳴なのですが，多くの優れた演題から「優秀演題賞候補演題」や「優秀演題賞」を選ぶことが困難で，山形大学の倉智教授や福井大学の宮本教授はじめ，多くの方のご支援をいただきました．改めて，お礼を申し上げる次第です．また，参加者数も約800名と過去最高となり，特に学生の参加が増加したことも特筆に値すると思われます．これは，生殖内分泌学の将来の発展を予感させるものと期待されます．

本学術集会では，エピジェネティクス研究の第一人者である九州大学生体防御医学研究所の佐々木裕之教授による「ゲノムインプリンティングの基礎と生殖医療」の特別講演が開かれました．その内容は，ご自身がインプリンティングに興味をもつようになった契機から卵母細胞における siRNA の働きなどの最新の知見までを網羅するもので，多くの研究者―特に若手研究者―に大きな刺激を与えていただいたと確信しております．また，「ライフサイクルと生殖内分泌」というシンポジウムでは，胎児期・新生児期・乳児期，思春期，成人期，閉経後の各年代におけるホットトピックを，まさにその領域の第一人者にご講演いただき，また，ランチョンセミナーにおいても「SGA 性低身長と DOHaD」という小児科と生殖医学の両者に関わるホットトピックをご講演いただくことができ，多くの知見を学ぶことができました．座長・演者の方に，そしてご参加いただいたすべての方に厚くお礼申し上げます．

第18回日本生殖内分泌学会学術集会　会長
緒　方　　勤
浜松医科大学小児科